

よっ葉だより

2018年
10月8日号
No.527

地産地消～いのちと健康



くらしを守る～

よっ葉生活協同組合

地域の人に寄り添い 「声掛け・見守り」を毎日続けています!

座りこむご高齢者を発見!

9月5日(水)12:30頃、那須塩原市周辺を配送中の時、ご高齢の方が、特にあてもなさそうに歩いている姿を目にした配送担当の松本さん。気にはなりつつ、近くのお宅への配達を3件終了した後、先ほどの方が道路わきにしゃがみ込んでいるのを発見しました。心配になって声をかけ、よく話を聞いてみると、買い物をしたくて出かけたはずが、自宅が分からなくなってしまうとのこと。1時間ほど歩いていたらしく、台風明けで気温も30℃を超えていたため、熱中症を懸念して持っていた水分を手渡しして飲んでもらいました。ご自宅が分かるような手がかりがないかと探しましたが、見つからなかったため、塩谷センターへ連絡しました。松本さんから上記の報告を受けたよっ葉生協塩谷センター肥後所長は、警察へ連絡して保護をしてもらうよう指示をし、警察が到着するまで付き添ってあげるよう伝えたそうです。到着した警察官に状況説明をして引き継ぎをした松本さんは、すぐ配送業務に戻り、30分ほど遅延があり組合員さんへご迷惑をおかけしましたが、無事配送を終了することができました。

「人として当たり前のこと」

2016年に全国の警察へ、認知症が原因で行方が分からなくなったと届けがあった行方不明者は、前年から26%増えて1万5432人でした。2012年の統計開始から4年連続で増え続け、過去最多を毎年更新しています。警察の捜査活動や見かけた方の通報で発見されるケースが一番多いそうですが、行方不明になってから発見までに時間がかかると、交通事故や夏の熱中症、冬場は凍死などの恐れもあります。

8月25日(土)によっ葉生協の全体研修会を行った際に、佐野日本大学短期大学の山田昇教授から「地域社会を支える生協活動への期待～地域住民のニーズに応える活動の取り組み～」という題で講演をしていただきました。その中で、「急激な社会、経済情勢の変化の中で、生活し辛さ・生きにくさを抱える人は決して少なくはない。



「肥後所長と松本さん」

地域生協として、利用者を支え、地域を支える活動の取り組みをすすめてほしい」と、ご提案いただきました。

今回、高齢者の方にお声かけをした松本さんは、配送業務の傍ら、常日頃から地域の見守り活動を意識して業務にあたっていたそうですが、山田教授の講演を直近で聞いて学習していたことが強く残っていて、すぐに行動に移せたとのことでした。「でも、人として当たり前のことをしたただけです。」と松本さん。

よっ葉生協は、組合員さんへ安心安全なよっ葉の商品と想いを届けるとともに、地域の方々にも感謝の気持ちと「気づく心・つなげる行動」を持って、日々の業務にあたります。より一層、地域の方々に必要とされる存在になれるよう努力していきます。

理事長 倉持

